

令和7年度 千葉市生活支援コーディネーター

緑区 第1層協議体

テーマ：ベンチを活用した移動支援

～ホッとステーション事業との連携～

1 概要

日時：令和8年2月6日（金）
場所：緑保健福祉センター
大会議室

2 目的

福祉施設と生活支援体制整備事業について共通認識を図り、連携体制を強化する。

3 参加団体

計：18団体 23名

高齢者施設(9)、障害者支援施設(1)、NPO法人(1)、大学(1)、高齢障害支援課(1)、健康課(1)、あんしんケアセンター(1)、社協(5)、生活支援コーディネーター(3)

4 協議体設置に至った経緯

今年度は、自立促進ケア会議の事例対象者へのマッチング活動として、NPO法人が実施する事業と連携し、「ベンチ設置による徒歩の移動支援」に取り組む機会があった。こうした実践を踏まえ、「多様な主体との連携」および「マッチング活動」について、改めて協議体の場で共有することとした。SCの役割や活動に対する理解を深めるとともに、今後のさらなる連携・協働の促進を目的として、協議体を設置・開催した。

5 内容

①生活支援コーディネーター（生活支援体制整備事業）について

②ホッとステーション事業について

③ホッとステーション事業の活用に至った経緯

④ベンチ設置による移動支援

⑤グループワーク（3グループ）

「ベンチの可能性を広げる 好循環を生む仕組み・アイデア」

5. 協同機関による連携活動

5-1. ベンチプロジェクト ～「座」が繋ぐ人の輪交流活動～

【方法】

敷地内、もしくは管理できる場所にベンチを置いてもらい、地域の方々に活用していただく

【背景と内容】

コロナ禍、人と人が交わることを億劫にしない時代があり、孤立化の懸念が深刻化した。そこで撤去されたスロープやコンクリート、公共施設などのベンチや様々な場所で見つけたベンチを活用し、改めて「交流の場・拠点」とする。そして、シビックマップのベンチを活用し、人と人がつながるきっかけを作り、様々な地域で、様々な人が集って、様々な活動や制度に活用していく活動。

※設置されたベンチに活用していただく地域のみなさんの一歩の活動に感謝



【実践例】
千葉市緑区生活支援体制整備事業と公園マップ×ホッとSTベンチの活用
千葉市緑区の土気地域において、徒歩で外出する際に休憩できる場所が少ないことや、高齢になってから通ってきて地域の情報を知らない方、高齢者が安心して外出できる環境づくりが地域課題となっていた。この課題に対して「気軽に外出したくなるような地域資源をつくる」と考えていただき、ほっとステーションベンチが設置されていることなどを踏まえ、「あずみが丘エリア公園マップ（散歩道編）」を作成。その場所と「あずみが丘エリア公園マップ（散歩道編）」を活用し、土気の福祉施設・店舗などに協力しながら「ホッとステーション」をベンチの設置を推進。通学路にある老人ホームの入居者と子どもたちの交流が生まれる等、新たなつながりも生まれている。
今後も、この公園マップとあずみが丘エリア公園マップ×ホッとSTベンチの設置場所を拡大し、だんだん「あずみが丘マップ」を作成予定。



浮かび上がった地域課題

- 呼び寄せ高齢者が多い
- 外出時に休憩できる場所が少ない
- 自宅で気軽に取り組める地域資源を
- 気軽に外出したくなる地域資源を



②ホッとステーション事業について

③ホッとステーション事業の活用に至った経緯

設置後に地域を回ったところ、高齢者が利用している様子を見かけた。



④ベンチ設置による移動支援



8か所
ベンチが
設置
できました。

④ベンチ設置による移動支援

6 結果 〈ベンチの可能性を広げる 仕組み・アイデア〉

○外出促進・移動支援（徒歩）

- ・外出時に休憩場所があれば、歩行距離を延ばすことができる。
- ・ケアマネジャーと情報共有することで、外出や社会参加の促進に繋がる。

○地域交流・見守り

- ・園児の散歩や学校の登下校時に、子どもとの交流や見守りの機会になる。
- ・テーブル等を設置すれば、折り紙や交換ノートのような交流もできる。
- ・移動販売や移動図書館等とあわせて活用し、地域交流の活性化を図る。
- ・地域イベントで活用する。例えば、ハロウィンで仮装した高齢者がベンチに座り、子どもたちがベンチをまわる等。
- ・警察や消防署との情報共有で地域の見守り機能を充実させる。

○健康維持・増進

- ・座ってできる体操やストレッチを紹介し、健康維持・増進に繋げる。
- ・ベンチから定刻にラジオ体操の音源が流れる仕組みがあるとよい。

○情報発信

- ・二次元コードやチラシ等の掲示により情報発信することができる。
- ・ベンチマップを作成、共有することで、幅広い活用方法が期待できる。

○福祉教育

- ・学校の福祉教育で、居場所や交流の大切さについて考える機会にする。ベンチ利用のマナーや高齢者に対する意識の変化も期待できる。

○福祉施設で活用

- ・災害時に施設を開放し、ベンチやのぼり旗を目印にして一時避難所にする。消防や警察と連携し、安全に避難所まで移動できるようにする。
- ・面会時に、屋外の解放された場で家族との団らんができる。

○マナー・その他

- ・プランターの花を置くことで、ごみのポイ捨て等の抑止力になる。
- ・事業の目的の周知により、マナーの意識が変わる。
- ・ベンチサポーターのボランティアを募る。周知、マナー啓発、活用促進、メンテナンス等を地域の力でサポートする。活躍の場の創出にもなる。



グループワーク

〈協議体を通して〉

- ・生活支援コーディネーター（SC）の役割であるマッチング活動について、具体的な取組事例を通じて理解を深めることができた。
- ・マッチング活動における地域資源の捉え方やSCの視点を、参加者間で共有することができ、今後の協力体制の強化につながる成果が得られた。
- ・ベンチ設置の可能性を広げるアイデアや、区内の体制整備につながる意見を、多様な視点から得ることができた。
- ・地域の多様な主体との連携により、双方からのアプローチや相乗効果が期待でき、協働の意義や価値を再確認する機会となった。

7 今後に向けて

次年度もホッとステーション事業と連携し、高齢者の徒歩移動支援・外出機会の拡充を図るとともに、社会参加を通じ、孤立防止や生きがいの創出を支援する。第1層協議体を活用し、地域の多様な主体と、支援ニーズおよび実践事例・マッチング活動の情報を共有し、広域的・横断的な連携を図りながら、生活支援体制整備を推進する。

8 担当

緑区 第1層生活支援コーディネーター
【TEL】043-292-8185
【所在地】〒266-8550 千葉市緑区鎌取町
226-1 緑保健福祉センター内
社会福祉協議会緑区事務所

千葉市生活支援コーディネーター



千葉市
ホームページ

